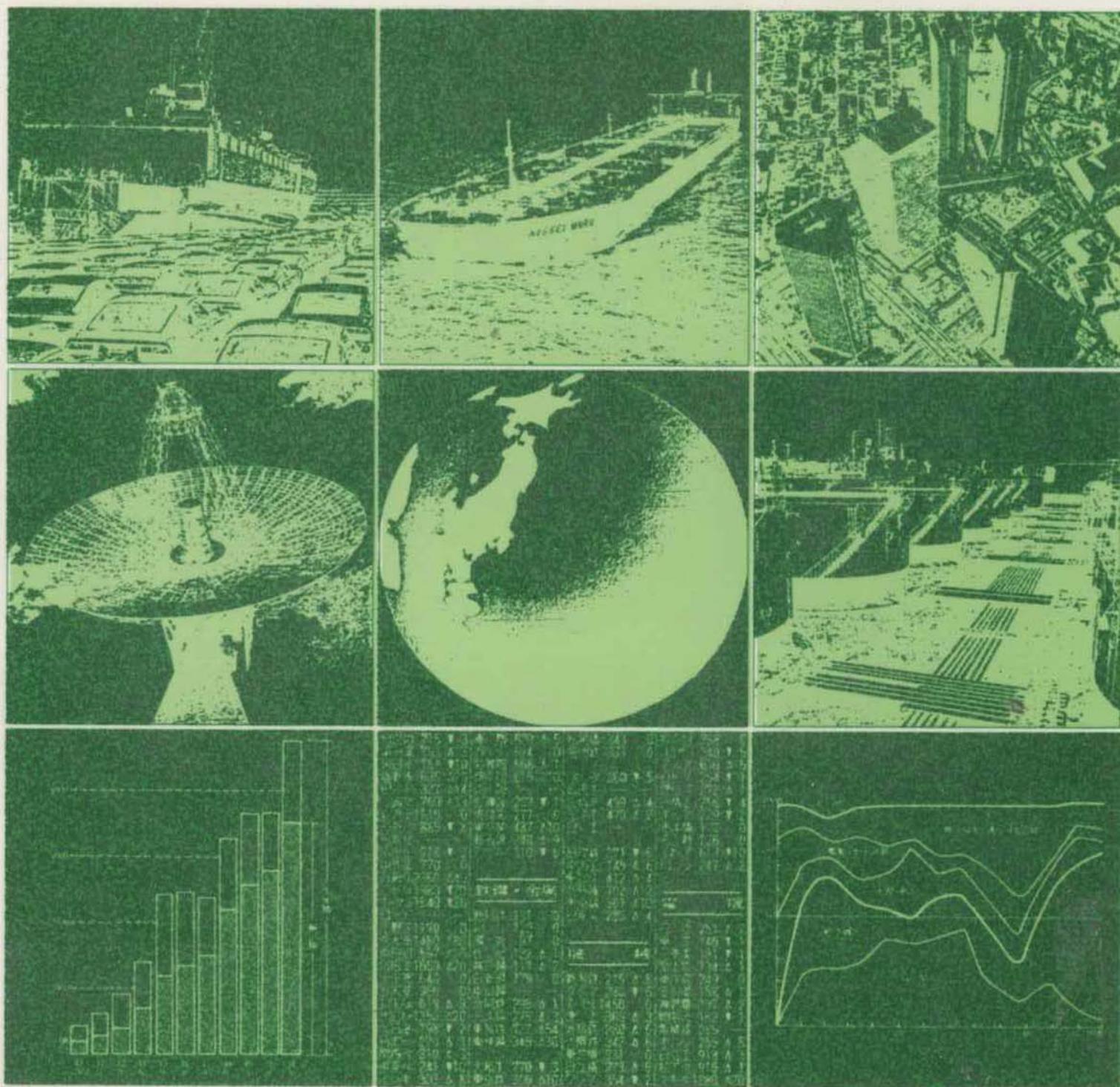


生命保險業界

今村金彌著



産業界シリーズNo.308

生命保険業界

今村金彌著



教育社新書

今村 金彌 (いまむら・きんや)

1935年 山梨県

1959年 東京大学法学部卒

同年 朝日生命保険相互会社入社

現在 同社企画調査室長

1982年5月25日 第1刷

産業界シリーズ・308

生命保険業界

定価880円

著者——今村 金彌

発行者——高森 圭介

発行所——株式会社 教育社

販売——教育社出版サービス株式会社

〒102 東京都千代田区富士見2-11-10 丸十ビル

電話 (03) 264—5477 (代)

(分)2260 (製)72008 (出)1498 © 今村金彌 1982

落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。

産業界シリーズNo.308

生命保険業界

今村金彌著



教育社新書

まえがき

闇に塗られた夜汽車の窓を、山峡の灯が光のつぶてのように通りすぎる。あの灯の下にどんな人生があるのだろうか。這いくの赤児をあやす幼い姉、二人を見守る老夫婦、そして食事の片付けをする若い妻と新聞を読む夫、こんな平凡な団欒かも知れない。いや、今逝つたばかりの父親の周りで泣き叫ぶ妻と子供たち、そんな悲しげな灯にもみえる。愛と憎しみ、喜びと悲しみ、幾つもの交錯する人生をその灯の下に想像することがある。

あの灯の下に人生を想うように、一枚の生命保険の申込書に人生を感じことがある。一枚の申込書に触れると、人生の重みが伝わってくるような気がする。

三〇年も昔、私の父が一枚の生命保険申込書に、署名したとき、私の人生が決まつたようだ。間もなく父が逝き、母が保険金を手にして、外務員としてその会社で働くことになつた。そして、それから七年、私も大学卒業の年、その会社に入ることを決めた。入社後何年かして、幾つかの生命保険会社で同じような道を歩んだ多くの人に会つた。

何気なく外務員が勧めた一件の生命保険契約が、人々の人生を変え将来を決めることになる。一件の申込書、一件の契約は人々の人生にとつてそれほど重い意味をもつていて。

生命保険事業は、こうして何千万人もの人生に深くかかわっている。生命保険事業に携わるものは、いつもこうした多数の人々の人生の重みを背に感じていなければならない。人々への思いやりを欠いては、生命保険事業の灯は消えてしまうであろう。この何千万人の人々が拠出した僅かな資金が集まつて生命保険会社という巨大な金融機関を形成する。そしてその莫大な資金が、その何千万もの人々の構成する経済社会を変えこれを形造る。生命保険経営は、ここでも理想の社会を追い求める、より深遠な哲学を要求されることになる。

そして、それでいてなお生命保険事業は、資本主義経済のなかできびしい競争を生き抜く私企業体である。ここでは、最大の利益を追い求めて常に優れた先見性と大胆で素早くかつ慎重な決断を必要とする。きびしい競争を生きる逞しさ、理想を求める情熱、そして何よりも人々の幸せを求める暖い心を必要とする生命保険事業は、近代社会に最も合致した企業体である。若い優秀な人々が、その一生を賭けて挑戦するにふさわしい事業であると思うのである。なお、この本をまとめるに当つては、多少私自身の意見や特長を出すよう努めたが、多くは国崎裕氏の『生命保険』(東大出版会)によつている。

著者

目 次

序章 生命保険の概況	13	13
1 生命保険業績の概況	13	13
生命保険契約高／生命保険の普及度／普及度の国際比較／生命保険会社数	13	13
2 生命保険会社の概況	17	17
大手会社／中堅会社／合弁会社および外国会社	17	17
3 生命保険のイメージ	25	25
第1章 社会保障と生命保険	27	27
1 社会保障の誕生と発展	27	27
資本主義社会と社会保障の始まり／社会保障の拡大とその矛盾／社会保障拡大による 経済社会の衰退	25	25
2 二一世紀の福祉社会の模索	34	34

社会保障の原点への回帰／個人・企業保障の充実と国の施策／付・若々しい“古い”
の社会へ

第2章 生命保険機構の種類	51
1 生命保険会社以外の機構 概要／簡易保険／共済制度	51
2 生命保険会社 概要／株式会社と相互会社／株式会社の相互会社化／相互会社の株式会社化	58
第3章 生命保険の種類	69
1 生命保険の基本型 死亡保険／生存保険／生死混合保険／傷害疾病保険	69
2 生命保険の幅を広げる特約 基本契約に給付を付加する特約／基本契約の一部特別取扱いの特約／基本契約の一部修正により加入を認める特約	85
3 生命保険のその他の分類	91

配当付保険と無配当保険／有診査保険と無診査保険	4	企業保険とその種類	93
団体定期保険／企業年金保険／厚生年金基金保険／付・生命保険の役割			
第4章 生命保険商品の動向	101	101	101
1 従来の保険概念のなかでの商品	101		
個別商品のライフ・サイクル的利用／一般化と個別化			
2 従来の保険概念を超えた商品	109		
保険の保険化—自動増額特約／インフレへの挑戦／ライフ・サイクル化への努力／総合金融サービス付生命保険			
第5章 生命保険契約	121	121	121
1 契約自由の原則と契約者保護	121		
生命保険契約の付従契約性／契約者保護の法的措置			
2 生命保険契約の性格	126		
生命保険契約の基本的な性格／生命保険契約の特長／被保険利益の概念／保険契約関			

係者

3 生命保険契約の重要事項	134
申込時における事項／契約時における事項／保険契約の継続時における事項／保険事故発生時における事項／剩余金分配と社員配当金	
4 生命保険約款の改善	144
契約者サービスへの改善／モラル・リスク抑制のための改善	
第6章 生命保険の募集制度	147
1 募集制度の概要	147
生命保険と外務員制度／各種の募集制度	
2 アメリカの募集制度	149
総代理店制度と支社制度／保険ブローカー（保険仲介人）／アメリカの募集制度の改善	
3 イギリスの募集制度	147
募集制度の概要／各種の募集制度	
4 わが国の募集制度	163
募集制度の概要／戦後の動向と特長／募集制度の最近の動向／付・寒い日の思い出	

第7章 生命保険会社の資産運用	175	175
1 生命保険資産の運用原則	175	
生命保険資金の特長／資産運用の諸原則	175	
2 生命保険会社の資産運用	189	
生命保険会社の資金力／生命保険会社の資産内容	189	
第8章 生命保険の歴史		
1 生命保険の誕生	197	
生命保険の始まり／生命保険制度の確立	197	
2 生命保険の国アメリカの歴史		
生命保険革命の四〇年代／トンチン保険をめぐる三十年戦争／アームストロング調査／生命保険業界の危機と挑戦	202	
3 わが国の生命保険の歴史		
わが国の生命保険の始まり／昭和不況から大戦へ／戦後から復興期に向けて／高度成長期の生命保険／死亡保障化と契約高競争の激化	212	

第9章 二二世紀への生命保険業界

1 生命保険市場の変化	223
経済社会の変動／最近の生命保険市場分析	223
2 八〇年代の生命保険市場	227
停滞する死亡保障市場／拡大する老後保障市場／傷害疾病保険市場の課題	227
3 生命保険経営体質の変化	237
生命保険契約および契約管理・投資面の変革／募集制度面の変化／生命保険経営の本質の変化	237
資料編	249
資料1 生命保険会社一覧／資料2 世界各国の生命保険状況／資料3 生命保険の国民所得、世帯数に対する割合の推移	249
用語解説	254
参考文献	258

図表目次

図 2・1 機構別シェアの推移（収入保険料）	表 6・2 保険ブローカー	
図 4・1 定期付養老保険	表 6・3 プロパーとデビットの相異	
図 4・2 遅増型終身保険	表 6・4 過去一〇年の指標	
図 7・1 金融機関の株式保有状況	表 7・1 金融機関資力一覧	
表序・1 保有契約高の推移	表 7・2 主要金融機関の設備資金供給状況	
表序・2 保有契約高の対前年度伸び率推移	表 7・3 資産の分布状況と推移	
表 1・1 公平性の見地に基づく税制優遇措置	表 7・4 金融機関の株式保有割合	
表 1・2 個人にに対する優遇措置	表 7・5 生命保険会社の住宅関連融資残高の推移	
表 2・1 生命保険機構の概況	表 7・6 生保海外投融資残高の推移（総資産占率）	
表 2・2 株式会社と相互会社の相異	表 8・1 人々の支出する保償費用の内訳と推移	
表 3・1 男子三〇歳、保険期間二〇年、満期保険金 一〇〇万円の場合	表 8・2 退職貯蓄の機関別シェア	
表 4・1 簡易保険と普通保険との相異	表 8・3 生命保険・健康保険・退職貯蓄など保償費用の機関別シェア	
表 4・2 ブルデンシャルの高額保険と小口保険	表 8・4 国民個人保険種類別新契約占率	
表 4・3 定額保険と変額保険	表 9・1 個人保険新契約高伸展率（年率）・機関別 新契約件数	
	表 9・2 人口予測	
	表 9・3 人口対一〇〇年齢別新契約加入率	
115 108 107 78	59 52 46 38 14 14	193 105 103 52
表 6・1 失効・解約率の推移	表 6・2 保険ブローカー	
表 6・3 プロパーとデビットの相異	表 6・4 過去一〇年の指標	
表 7・1 金融機関資力一覧	表 7・2 主要金融機関の設備資金供給状況	
表 7・3 資産の分布状況と推移	表 7・4 金融機関の株式保有割合	
表 7・5 生命保険会社の住宅関連融資残高の推移	表 7・6 生保海外投融資残高の推移（総資産占率）	
表 7・6 生保海外投融資残高の推移（総資産占率）	表 8・1 人々の支出する保償費用の内訳と推移	
表 8・1 人々の支出する保償費用の内訳と推移	表 8・2 退職貯蓄の機関別シェア	
表 8・2 退職貯蓄の機関別シェア	表 8・3 生命保険・健康保険・退職貯蓄など保償費用の機関別シェア	
表 8・3 生命保険・健康保険・退職貯蓄など保償費用の機関別シェア	表 8・4 国民個人保険種類別新契約占率	
表 9・1 個人保険新契約高伸展率（年率）・機関別 新契約件数	表 9・2 人口予測	
表 9・2 人口予測	表 9・3 人口対一〇〇年齢別新契約加入率	
226 226 224 224	218 210	210 210

表 9・5	新契約（死亡保障額）予測	227
表 9・6	老後保償市場人口	228
表 9・7	世帯数および所得の推移	228
表 9・8	被扶養人口占率	228
表 9・9	女性の労働力変化	230
表 9・10	アメリカの募集制度の動向	230
表 9・11	イギリスの募集制度の動向	241

序章 生命保険の概況

1 生命保険業績の概況

生命保険契約高

生命保険の保有契約高は、一九八〇年度末（昭和五十五年度末）で、五七二兆円に達した（表序・1参照）。保有契約高は、加入者に対する保険金額の総額をいい、通常死亡保険金の総計（契約により満期保険金のほうが死亡保険金より多い場合は満期保険金を使用する）で表示される。

保有契約高の伸び率は、一九七四年（昭和四十九）をピークに件数、金額ともに伸び悩み、それ以降毎年継続的に伸び率の低下を見せた。とくに、一九八〇年（昭和五十五）、その伸び率は、ついに一ヶタ台に入った（表序・2）。

保険種類別には、団体保険の伸び悩みが顕著であるが、個人保険もまた、契約高の伸び率の低下傾向が明らかとなっている。

表序.1 保有契約高の推移

	個人 人 保 險		團 体 保 險		合 計	
	件 数	金 額	被保険者数	金 額		金 額
1970 (昭45)	6,452万件	60兆67百億円	4,192万人	17兆56百億円	10,644万件	78兆23百億円
75 (50)	7,500	173 05	8,779	92 36	16,279	265 41
76 (51)	7,581	212 30	9,849	122 17	17,429	334 47
77 (52)	7,697	253 74	10,797	146 86	18,494	400 60
78 (53)	7,939	299 64	11,348	163 92	19,288	463 56
79 (54)	8,166	344 73	12,161	176 66	20,327	521 40
80 (55)	8,286	384 33	12,696	188 00	20,982	572 33

表序.2 保有契約高の対前年度伸び率推移 (%)

	個人年金保険		団体年金保険		年 度	個人 保 險		團 体 保 險		生命保険合計		
	件数	年金年額	1件当たり 年金年額	件数	被保険者 数	件数	金額	被保険者数	金額		件数	金額
1970	万件	億円	万円	件	万人	件	億円	件	億円	1975	3.3	24.4
25	325	13	78,018	1,608	2,220	76	1.1	22.7	17.3	40.0	10.4	29.4
75	312	17	76,623	3,114	9,788	77	1.5	19.5	9.6	20.2	7.1	26.0
76	327	18	75,195	3,322	12,595	78	3.1	18.1	5.1	11.6	6.1	19.8
77	390	20	74,235	3,582	15,913	79	2.9	15.0	7.2	7.8	4.3	15.7
78	505	23	74,909	3,859	20,379	80	1.5	11.5	4.4	6.4	3.2	12.5
79	33	31	77,768	4,165	25,914							9.8
80	46	1,608	35	81,512	4,631	32,920						

注：生命保険合計の件数は、個人保険の件数に団体保険の被保険者数を加えたものである。

資料：生命保険文化センター「'81生命保険ファクトブック」

資料：生命保険文化センター「'81生命保険ファクトブック」